【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】令和4年1月17日(2022.1.17)

【公開番号】特開2020-34939(P2020-34939A)
【公開日】令和2年3月5日(2020.3.5)
【年通号数】公開・登録公報2020-009
【出願番号】特願2019-201145(P2019-201145)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｃ　5/20(2006.01)
Ｇ０２Ｃ　1/00(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｃ　5/20
Ｇ０２Ｃ　1/00

【手続補正書】
【提出日】令和4年1月6日(2022.1.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
眼鏡であって、
レンズを有するフロント部と、
前記フロント部の両端から略垂直に延伸し、一端近傍が使用者の耳上部に係止して前記フロント部を支持する一組の腕部と、
前記各腕部に対し、使用者頭部の左右方向の軸周りに回動可能に連結する一組の眼鏡支持部材とを有し、
前記眼鏡支持部材は、
頬骨弓に係止するよう側頭部に当接する頬骨弓当接部と、
頭頂骨の外側位置に当接して前記眼鏡を上から支持し、前記眼鏡支持部材の回動により前記頭頂骨との当接位置を調節可能な頭頂骨支持部と、を有することを特徴とする眼鏡。
【請求項２】
請求項１に記載の眼鏡であって、
前記頬骨弓当接部は、前記眼鏡支持部材の回動により前記側頭部との当接位置を調節可能であることを特徴とする眼鏡。
【請求項３】
請求項１又は２に記載の眼鏡であって、
前記眼鏡支持部材は、前記頬骨弓当接部と前記頭頂骨支持部との間に、前記腕部と着脱可能に接続する連結部材を有し、
前記連結部材は前記眼鏡支持部材に対し回動可能に設けられることを特徴とする眼鏡。
【請求項４】
請求項３に記載の眼鏡であって、
前記連結部材は複数の嵌合部分を有し、前記嵌合部分のいずれかと前記腕部とが着脱自在に嵌合することを特徴とする眼鏡。
【請求項５】
請求項１から４のいずれか一項に記載の眼鏡であって、
前記一組の眼鏡支持部材は、各々一端に前記頬骨弓当接部を有し、他端に前記頭頂骨支

持部を有する筋状の部材からなり、前記腕部の下方から上方に、かつ頭部の前方から後方に向かって、斜めに延伸することを特徴とする眼鏡。
【請求項６】
請求項１から５のいずれか一項に記載の眼鏡であって、
前記一組の眼鏡支持部材は、各々の前記頭頂骨支持部で互いに連結していることを特徴とする眼鏡。
【請求項７】
請求項１から６のいずれか一項に記載の眼鏡であって、
前記眼鏡支持部材は、前記頬骨弓当接部と反対側の面に、鉤状部材を有することを特徴とする眼鏡。
【請求項８】
請求項１から７のいずれか一項に記載の眼鏡であって、
前記腕部は、長手方向に延伸するスリット又は長手方向に連続配置された複数の第２の貫通孔を有し、
前記眼鏡支持部材は、前記スリット又は前記第２の貫通孔に貫通する固定部材により、前記腕部の長手方向の任意の位置に固定されることを特徴とする眼鏡。
【請求項９】
眼鏡の腕部に対し、使用者頭部の左右方向の軸周りに回動可能に連結する眼鏡支持部材であって、
頬骨弓に係止するよう側頭部に当接する頬骨弓当接部と、
頭頂骨の外側位置に当接して前記眼鏡を上から支持し、前記眼鏡支持部材の回動により前記頭頂骨との当接位置を調節可能な頭頂骨支持部とを有することを特徴とする眼鏡支持部材。
【請求項１０】
眼鏡の腕部と連結する眼鏡支持部材であって、
頬骨弓に係止するよう側頭部に当接する頬骨弓当接部と、
頭頂骨の外側位置に当接して前記眼鏡を上から支持する頭頂骨支持部と、を有し、
前記腕部の軸周りに回動可能に連結することを特徴とする眼鏡支持部材。